様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３４５１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２９０８

研究課題名（和文）英語教育・日本語教育・国語教育における学年別・レベル別教材の横断的調査

研究課題名（英文）Cross-sectional Research on Graded and Level-classified Educational Materials in English Education, Japanese Language Education, and Japanese Language Education for Native Students

研究代表者
建石　始（TATEISHI, HAJIME）

神戸女学院大学・文学部・教授

研究者番号：７０４６９５６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題において，英語教育，日本語教育，国語教育という３つの言語教育分野を横断的に研究するという挑戦的な研究を行った。その第一歩として，本研究課題において，各言語教育で使用される児童・生徒向け教材（小学生～中学生対象）を研究対象とし，学年別・年齢別に語彙・文法の縦断的調査を行った。その結果，それらの特徴を，これまでに明らかにされている言語習得（母語・第二言語）の研究成果と照らし合わせ，各教材の相違点や課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の特色は，これまで独立して研究され，独立して教材作成や教育が行われてきた三つの言語教育分野を横断的に分析することである。各分野の専門家が協力し，横断的に教材を比較することによって，それぞれの特徴が明らかになり，新たな課題が得られた。さらに，その結果，各教育の連携がうまく進むことによって，それぞれの言語教育の促進が可能となった。義務教育の中で行われている国語教育と英語教育，そして日本語教育が結びつくことで，より効率的で深い言語習得が可能となる。また，グローバル化する社会の中で，普遍的な言語知識の促進に資するような新たな教材の開発への糸口が見つかる可能性もある。

研究成果の概要（英文）：In this study subject, we conducted the challenging study of researching three language education fields in a cross-sectoral manner: English education, Japanese language education, and Japanese language education for native students. As the first step, in this study subject, we conducted the sectoral research on vocabulary and grammar classified by grade and age with educational materials for elementary and junior high school students used in each language education. As a result, the difference and problem of each educational material were clarified, those features compared with the results of previous studies of the language acquisition (native language and second language).

研究分野：日本語教育

キーワード：英語教育　日本語教育　国語教育　教材　テキスト化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

日本では、英語教育、日本語教育、国語教育はそれぞれ独立して行われている。しかし、これらはすべて言語教育であり、対象とする言語の違い、そして第二言語教育（英語教育、日本語教育）であるか母語教育（国語教育）であるかという点では異なる点もあるものの、共通点も存在する。具体的には、近年の言語習得研究では、日本語か英語かといった対象言語の違い、あるいは母語か第二言語かという違いに関わらず、否定の構造の違いによる習得順序や文構造の習得順序など、習得過程には共通点が観察されることが指摘されてきている。

また、小学校での英語教育の導入という現状を視野に入れた場合、国語教育と英語教育の連携をさらに強める必要があることは周知のとおりである。そう考えた時、国語教育と英語教育との間には母語か非母語かという違いが存在するが、その両者の溝を埋めるものとして日本語を外国語として見る日本語教育の視点が欠かせない。上記三分野は本来、このように密接な関係にあることが望ましいのだが、そうなっていないのが研究開始当初の背景であった。

各言語教育分野は日本国内における研究においても完全に独立しており、カリキュラムや教材などを比較検討することは行われてこなかった。また、各言語教育分野に関する学会もそれぞれ独立しており、それぞれの言語教育分野で明らかになってきた学習者の特徴や教育上の課題などがほとんど共有されていないのが研究開始当初の背景であった。

２．研究の目的

上記の状況においては、同じように日本語を母語とする学生を対象に行われる国語教育と第二言語としての英語教育の間で情報交換はほとんど行われておらず、それぞれの教育が相互的に影響を与えることはない。しかし、例えば、主語・述語の概念、語形成規則、文字と音の関係など、日英対照言語学の研究成果も含め、相互に連携を取ることで好影響を与えうる題材は多数存在している。さらに、国語教育と第二言語教育（もしくは第三、第四言語）としての日本語教育は共に日本語を対象言語とするものであるが、その間の比較研究も少ない。しかし、先にも指摘したように、国語教育と英語教育との架け橋として日本語教育の視点を取り入れることによって、新たな視点からの課題が見えてくる可能性がある。

本研究では、英語教育、日本語教育、国語教育という３つの言語教育を横断的に比較検討することで、独立した言語教育から、有機的に結びついた言語教育をめざし、それぞれの言語教育に資する成果の提案を目指すものである。

３．研究の方法

対象とする各分野の教材を収集すると共に、教材に関する先行文献の収集を行った。文献収集に関しては、各研究分担者で分担し、所属研究機関を通して行った。また、各言語教育で使用されている教材に関する文献収集に加えて、各所属研究機関やそれ以外の機関においてそれぞれの言語教育を研究対象としている他の研究者と意見交換を行い、知見を深めた。

各分野の教材の特徴を持ち寄り、分野間で横断的な共通点、相違点の分析を行った。言語習得研究の成果との比較を行い、そこで得られた特徴とこれまでの母語・第二言語習得

研究でわかってきた言語習得上の特徴を比較することで、各教材の特徴と課題を探った。

４．研究成果

これまで行われてこなかった三つの言語教育分野を横断的に研究するのは、非常に大きく新しい挑戦である。その第一歩として、本研究では各言語教育で使用される児童・生徒向け教材（小学生～中学生対象）を研究対象とし、学年別・年齢別に語彙・文法の縦断的調査を行い、以下の点を明らかにした。

- 各言語教育で育てようとするイメージ
- 提示される語彙リストと文法項目、およびその提示順序
- 教材の分量とその変化

そして、それらの特徴を、これまでに明らかにされている言語習得（母語・第二言語）の研究成果と照らし合わせ、各教材の相違点や課題を明らかにし、今後三分野を通して可能な教育内容の改善方法、ならびに言語学習という視点から見た場合の効果的な三分野の関係のあり方を提案した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 岩男 考哲・宮地弘一郎	４．巻 なし
２．論文標題 肢体不自由児の動詞の使用について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 2018中國文化大學日本語文學系國際學術研討會〈持続可能な社会のための日本語教育と日本文化研究を模索して〉論文集	６．最初と最後の頁 226-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 建石始	４．巻 創刊号
２．論文標題 日本語の数量詞句	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	６．最初と最後の頁 7-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Miho Mano, Yuko Yoshinari, and Kiyoko Eguchi	４．巻 なし
２．論文標題 The effects of the first language on the description of motion events: Focusing on L2 Japanese learners of English and Hungarian	５．発行年 2018年
３．雑誌名 New Perspectives on the Development of Communicative and Related Competence in Foreign Language Education	６．最初と最後の頁 125-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 眞野美穂・鈴江涼子	４．巻 33
２．論文標題 中学校英語検定教科書における動詞の出現頻度調査：現状と課題	５．発行年 2017年
３．雑誌名 鳴門教育大学研究紀要	６．最初と最後の頁 295-308
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 仲潔・岩男考哲	4．巻 17
2．論文標題 中学校「国語」・「英語」教科書における「異文化間交流」像 ：「コミュニケーション能力の育成」の前提を問う(その3)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 社会言語学	6．最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉成祐子・江口清子・眞野美穂	4．巻 21
2．論文標題 イタリア語およびハンガリー語を母語とする日本語学習者の移動表現類型論からみた母語の影響	5．発行年 2016年
3．雑誌名 ヨーロッパ日本語教育　報告・発表論文集	6．最初と最後の頁 249-253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中石ゆうこ・建石始	4．巻 2
2．論文標題 中国にルーツを持つ小学3年生のつまずき―子どもにとって優位な言語による違いに着目して―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 県立広島大学総合教育センター紀要	6．最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 建石始
2．発表標題 コーパスを活用した中国語教育にむけて
3．学会等名 中国語教育学会
4．発表年 2018年

１．発表者名 仲潔・岩男 考哲・伊藤創
２．発表標題 日本語母語話者に期待されるコミュニケーション観 －英語・国語・日本語教育の教科書分析を通して－
３．学会等名 韓国日語教育学会言語文化教育研究学会(日本)共同開催 2018年度第34回冬季国際学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miho Mano, Yuko Yoshinari, and Yo Matsumoto
２．発表標題 Representation of Sequential Path of Motion in L2: L1 Influence, Simplification, and Entrenched Patterns
３．学会等名 EuroSLA 28
４．発表年 2018年

１．発表者名 眞野　美穂
２．発表標題 日英語の移動表現における経路表示の多様性と第二言語習得
３．学会等名 関西言語学会第43回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 建石始
２．発表標題 連体詞「ある」・「一＋助数詞＋の」と共起する表現
３．学会等名 関西言語学会第42回大会　ワークショップ「名詞句が関わる指示機能と叙述機能」
４．発表年 2017年

１．発表者名 岩男考哲
２．発表標題 名詞述語文の「主観性」について
３．学会等名 関西言語学会第42回大会　ワークショップ「名詞句が関わる指示機能と叙述機能」
４．発表年 2017年

１．発表者名 Miho Mano & Yuko Yoshinari
２．発表標題 Paths to second language acquisition: Motion event descriptions in L1 and L2 English and Japanese
３．学会等名 International Cognitive Linguistics Conference (ICLC) 14
４．発表年 2017年

１．発表者名 岩男考哲・宮地弘一郎
２．発表標題 日本の「国語」の教科書で提示される語彙に関する調査
３．学会等名 2017中國文化大學日本語文學系國際學術研討會
４．発表年 2017年

１．発表者名 吉成祐子・眞野美穂・江口清子
２．発表標題 日本語学習者の使役移動表現：INTO経路を表す際の中間言語的特徴
３．学会等名 第27回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoshinari, Yuko, Andreani, Fabiana and Mano, Miho
２．発表標題 Reconsidering the typology of motion expressions: Focusing on differences between Italian, English, and Japanese
３．学会等名 49th Annual Meetings of the Societas Linguistica Europaea (SLE) 2016 （国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 吉成祐子・江口清子・眞野美穂
２．発表標題 イタリア語およびハンガリー語を母語とする日本語学習者の移動表現類型論からみた母語の影響
３．学会等名 The 20th Japanese Language Education Symposium in Europe (AJE) （国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 岩男考哲・仲潔
２．発表標題 生徒たちが教科書で触れる〝異文化間交流〟
３．学会等名 第六回日台アジア未来フォーラム「東アジアにおける知の交流―越境・記憶・共生―」
４．発表年 2016年

〔図書〕　計7件

１．著者名 岩田一成編，建石始著	４．発行年 2018年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 45-58
３．書名 語から始まる教材作り　担当第４章「類義語分析のためのチェックリスト」	

１．著者名 森篤嗣，田中祐輔，中俣尚己，奥野由紀子，岩田一成	４．発行年 2018年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 105-127
３．書名 コーパスで学ぶ日本語学　日本語教育への応用	

１．著者名 建石始	４．発行年 2017年
２．出版社 日中言語文化出版社	５．総ページ数 165
３．書名 日本語の限定詞の機能	

１．著者名 庵功雄・杉村泰・建石始・中俣尚己・劉志偉	４．発行年 2017年
２．出版社 日中言語文化出版社	５．総ページ数 140
３．書名 中国語話者のための日本語教育文法を求めて	

１．著者名 中俣尚己編，建石始著	４．発行年 2017年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 45-66
３．書名 コーパスから始まる例文作り　担当第３章「時を表す表現」	

１．著者名 福田嘉一郎・建石始・岩男考哲・眞野美穂他	４．発行年 2016年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 239
３．書名 名詞類の文法	

１．著者名 森篤嗣・中石ゆうこ・建石始他	４．発行年 2016年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 262
３．書名 ニーズを踏まえた語彙シラバス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	眞野　美穂 (MANO Miho) (10419484)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (16102)	
研究分担者	岩男　考哲 (IWAO Takanori) (30578274)	神戸市外国語大学・外国語学部・准教授 (24501)	